

「すべての与え主」 ローマ 8 : 3 2

I さまざまな出来事は、偶然に起こるのではない。神が創造者であり、万物の維持者である。神は、鳥にさえも食物を与えておられる。食物を備えておられるのは神である。では、私達については、どうだろうか。私達が、主を信じているなら、自分が、神に愛されている神の子供であることを覚えてほしい。神は、私達に命と体を与えられた創造者であるが、それ以上のお方。セルフイメージが低くなり、「自分なんか生きていても価値がない」と思えるように落ち込む時にも、神は私達に、心から、本気で語りかけられる。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」イザヤ 43 : 4。神は、私たち自身を大切にしてくさる。神は、私たちの事を気にかけて、支えて下さる。私達を大切にしてくさる最大、明確な証拠がある。それは、父なる神にとって、最も大切なひとり子の御子（キリスト）さえ惜しまずに、私達の身代わりに、十字架の死に渡された事実。その恵み深いお方が、私達に必要なものを恵んで下さらないことがあるだろうか。それが、本日の御言葉＝「私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう」ローマ 8 : 3 2 で明確に示されている。私達の生まれ、生命は、ことごとく神の決定による。この世に決して失敗しない人間はいない。優秀な医師でも、神ではなく、自分自身も病を経験される、いち人間である。同じ病状にあるように見える二人の患者が、同一の治療を受ける。しかし、一人は回復し、一人は回復しない事がある。これは、大いなる神秘であるが、私達は、これを受け入れなければならない。だから、私達は、すべてを神に委ねて、手術に臨む。命が長らえれば、素直に神に、医師、看護師の方々に感謝する。神のご支配の中で、治療を受けて、死を迎える事があっても、主が迎えて下さる天国に行くことができる。私達の命、時間は神の御手の中にある。命は神の賜物。命の始まりを与えられた神は、終わりを決定される。神が命を支えて下さるのであり、私達は神の御手の中にある。命という大事が神の支配下にあるならば、それより小さな事はすべて、神の御手にお任せして良いはずである。人には、果たすべき役割、仕事がある。種を蒔き、刈り入れる。しかし、神が太陽と雨を下さなければ、実を得る事は出来ない。人の分が与えられていると同時に、真に成長させて下さるのは神である。作物も信仰的成長も主の体である教会も成長させて下さるのは神ご自身。

II 私達は、神が下さった命、体を、神に心から感謝しているだろうか。神こそ、私たちの命、存在を与えて下さったお方。これは、本来、途方もない恵みである。私達は、当然のもののように誤解しているが。神は、私達、一人一人の事を御心にかけて下さっている。もし神が、お望みでなかったら、私達は誰一人この世に生まれて来なかった。無意味に生まれた人は一人もいない。神が一人一人を造られた。「あなたが私の内臓を造り、母のうちで私を組み立てられたからです。私は感謝します。あなたは私に、奇しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいは、それをよく知っています」詩篇 139 : 13, 14。この重要な事実を深く、いつも覚えていたい。私達の命、食物、生存が与えられている恵みへの心からの感謝を、また神が与えて下さった体の驚ろくべき機能、不思議さに対する感謝を神に奉げない日は、一日たりともあってはならないもの。本来は！これらのものは、すべて、全面的に神の恵み。※パラリンピックに出場されている方々から教えられ励まされる。失った機能を

悲しむプロセスを通り、次に、残っている機能、与えられている機能を最大限に生かす努力、歩み、勇気。感謝の心。私達の人生には、二つの対処、考え方、選択がある。人生で失ったものを、ずっと後悔し失望して人生を過ごし続けるか、それとも、失ったものへの後悔を止め、まだ残っているもの、神から与えられている機能を感謝し、それらを生かして生きる人生を選び、一日一日を大切に生きるか。「いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』ヘブル13：5。私達に、命を、また、それを維持する体を与えて下さるのは、神ご自身。神が、それらを与えて下さったならば、私達に関する神のご目的は、神によって成就される。神は決して、ご自身が始められた御業を、未完成のまま放置する方ではない。一たび着手された事は何事であっても、意図された事は何事であっても、確実に成就される。神の御心の中には、私達一人一人の生涯に対する御計画がある。この世における私達の生涯を何か偶然のもの、決して考えてはならない。神は、私たちの生涯に、ご計画と目的を持っておられる。その計画は、神の時に実現する。神は、私達の生涯を新しく始められるだけで、後はいいようにと、放り出したりはされない。主は、一たび、私達の救いの生涯を出発させられたならば、これを守り続け完成させて下さる。「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでそれを完成させてくださる」ペリピ1：6。

Ⅲ 労苦の多い私達の人生において、神は共におられ、常に導いて下さる。偉大な神は、宇宙、全世界の創造者であり支配者である。そして、私達一人一人は神に知られており、神との個人的な交わりに入れていただいている。「神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神に御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました」Iコリント1：9。ヘブル11章にしるされている信仰の人々を支えたものは、神への信仰、神との親しい交わりだった。しばしば彼らは、自分では分からない事に出くわしたが、彼らは「神が、すべてをご存知であり、神が責任を取って下さる」という信仰を持っていた。彼らは、自分達をこの世に生まれさせ、自分達にご自身の目的を持っていて下さる方が、自分達を置き去りにされたり、見捨てたりはなさらないという確信を持っていた。偉大な神は、確かに私達を支え、この世において、私達に与えられている目的が完全に成就されるまで、常に私達の旅路を導いて下さる。すべての必要なものを満たして下さる。そして、その目的が成就した時、私達を天の住まいに迎え入れて下さり、そこで、永遠を素晴らしい神の栄光の御前で過ごすのである。

私達に、大切なひとり子さえ与えて下さった神が、私達の人生を導き、私達の必要を、日毎に与えて下さることを信じ、神が与えて下さる残りの人生、一日一日を大切にし、神と共に歩みたい。「あなたがたは、地上に残された時を、もはや人間の欲望（神の御心に反する罪）のためにではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです」Iペテロ4：2